

令和元年度

学校関係者評価報告

2020年3月

学校法人浦山学園
富山情報ビジネス専門学校

「学校関係者評価報告書」の公表について

本校では、教育や業務の改善を図るべく、継続的に自己点検・評価に取り組んでおります。このたび、更なる教育の質の向上を目指し、高校関係者・保護者・卒業生や地域にかかわりの深い企業の方々を中心にご意見等を賜り、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく、「学校関係者評価委員会」を実施いたしました。

この委員会での検討内容を「令和元年度 富山情報ビジネス専門学校 学校関係者評価報告書」としてここに公表いたします。

委員会では、多くの貴重なご意見やご指導をいただき、あらためて感謝申し上げます。今後は、各評価委員からいただいた貴重なご意見、ご助言を真摯に受け止め、より質の高い教育、学校運営を実現すべく、教職員一同努力してまいります。そして、その結果につきましては、毎年学園のホームページ上で公表してまいります。

引き続き、温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

令和2年3月31日

学校法人 浦山学園
富山情報ビジネス専門学校
校長 浦山 哲郎

学校関係者評価委員会報告

本校は 22 年度より、財団法人 短期大学基準協会が定めた「短期大学評価基準」に合わせて自己点検評価を実施している。今回の学校関係者評価は、この基準に加え、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた内容とした。また、本校と関係する企業や団体等から学校関係者評価委員を選出し、「平成 30 年度自己点検・評価報告書」の内容と「平成 30 年度自己点検・評価報告書課題」を中心に、教育活動全般について評価していただいた。加えて、学校の新しい取り組みや学校を取り巻く環境や課題についても、報告や相談をおこない、学外からの意見と助言を求めた。各委員からの意見は、校長以下、自己点検・評価に係る担当者が承り、その内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

学校関係者評価委員会 委員

氏 名	所 属	選出区分	任 期
吉岡 隆一郎	株式会社文苑堂書店 代表取締役 会長	地元企業関係者	2 年
杉本 章郎	富山情報ビジネス専門学校 同窓会 会長	卒業生関係者	2 年
奈呉江 教典	高岡龍谷高等学校 校 長	高等学校関係者	2 年
塚田 孝子	富山情報ビジネス専門学校 後援会 会長	保護者関係者	2 年

(敬称略)

令和元年度 学校関係者評価委員会議事録

開催日時：令和2年度3月27日（金） 17:30～18:30

実施会場：富山情報ビジネス専門学校 USP Room3

出席者：学校関係者評価委員会委員

委員長 吉岡 隆一郎 株式会社文苑堂書店 代表取締役会長

委員 奈呉江 教典 高岡龍谷高等学校 校長

委員 塚田 孝子 富山情報ビジネス専門学校後援会 会長

(欠席) 委員 杉本 章郎 富山情報ビジネス専門学校同窓会 会長

富山情報ビジネス専門学校出席者

浦山 哲郎 富山情報ビジネス専門学校 校長

能登 一秀 富山情報ビジネス専門学校 副校長

石田 哲也 富山情報ビジネス専門学校 教務部 学科長

政岡 孝子 富山情報ビジネス専門学校 学事部 主任

山本 晋平 富山情報ビジネス専門学校 学事部 主任

議事次第：

1. 開会
2. あいさつ・趣旨説明
3. 平成30年度自己点検・評価報告説明
4. 質疑・応答
5. 閉会

資料：

- ・名簿
- ・委員会規程
- ・自己点検・評価報告書

議事内容：

1. 開会

委員全員出席を確認し、開会した。

2. あいさつ・趣旨説明

令和元年度には、教育目標を「つくり、つくりかえ、つくる」とし、[国家資格・検定合格に挑戦する自分づくり]、[社会性・創造性・国際性豊かな自分づくり]という2つの「自分づくり」を具体的に掲げました。次年度はこの「自分づくり」を評価し、自身や外部に公表する場として、「学修成果の可視化」に重点を置き、教育活動を推進していきたいと考えています。その中でこの自己点検・評価で挙げられた課題に対しても改善を図っていきたいと思います。本報告書に関するご忌憚のないご意見をよろしくお願いたします。

3. 自己点検評価・評価報告説明及び質疑・応答

石田学科長より平成30年度自己点検・評価報告書の課題と対応を中心に説明した。

平成30年度 自己点検・評価報告書 課題と対応 (平成30年度 自己点検・評価報告書より)

基準・区分		課題	対応
基準 I	C	授業アンケートの活用	授業アンケート結果が教育力向上に繋がるよう仕組みを構築
基準 II	A	DCA ポリシー、カリキュラムマップ、ツリーの見直し	令和2年度カリキュラム策定に際し、DCA ポリシー、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの見直しを行う
	A	(日本語学科) ベトナム人留学生に対応したカリキュラム	ベトナム人留学生に対応したより実践的で幅の広い学習者に対応できる教育課程を検討する
	B	学習到達度、自己評価アンケートについて	学習到達目標の達成度合いや学習成果についての分析結果を教育課程の編成や学習指導に活用していく
基準 III	A	教職員の減少	業務に必要な人員数とその資質を正しく見積もり、いつまでにどこを目指すのか明確化し、共有する
	B	校舎の老朽化	B館の空調、水周り等の改修工事を行う
	C	ネットワークサービス	SNSの利用計画を早期に決定し、起こりうる問題に対しての対策を検討する
	D	財的資源	学科・課程ごとの収支バランスを把握し、少子化の進展に対応できる財務体質の強化
	D	B. C館のLED化	校舎の老朽化に伴い、照明のLED化を検討する
基準 IV	B	会議規定	教務会議、運営会議の規定を策定する

※「平成30年度 自己点検・評価報告書 課題と対応」の基準 I～VI 網掛け部分について説明、質疑応答を実施

能登副校長より、今後の取り組みとして、下記の点について説明を行った。

- ・コアサイクル、建学の精神、教育理念、方針、教育目標、行動規範（スクールマーク）

- ・ 入学者確保に向けた広報活動について
- ・ 就職内定率向上に向けて
- ・ 学習成果の可視化の取り組み

学校関係者評価委員との質疑応答や意見交換を行う。以下その内容。

Q：学校の魅力を上げるためにも資格試験の合格率を向上させる必要があるのではないか。

A：医療事務の資格の合格率は年々、向上している。また診療情報管理士の資格は 100%であった。基本情報技術者は令和元年度 12 名であり、昨年に比べ大幅に増加している。基本情報の合格率が伸びた理由としては、比較的、一所懸命に頑張っている学生が多くおり、クラスの雰囲気、資格合格に向けて勉強する環境になっていた。今後はこの成果を単年度で終わらせるのではなく、合格率を上げるノウハウを集約する必要がある

Q：報告書を見ると、H30 年の入学者が例年に比べて減少している。またホテル・ブライダル学科が非常に少ない。

A：確かに難しい部分があるものの、情報システム学科の入学者が伸びている。新 2 年生は定員 30 名に対して、約 40 名の在籍。R2 年度の応募は 50 名と年々、増加傾向にある。ホテル・ブライダル学科では、次年度からの取り組みとして英語の授業を大幅に取り入れ、語学についても学び、競合校との差別化を行う。また現在、2 名の留学生が在籍している。今後は更に留学生の取り入れを積極的に行い、様々な国の文化や価値観を学べる学科としてグローバル人材の育成にも取り組む。

6. 閉会

能登副校長より、今後も当校の取り組みなどに対し、忌憚のない意見をいただけるようお願いし、閉会した。

以上